

[課題解決のための活動1]

【ねらい】 全員でアイデアを共有し合いながら活動し、相互に支えあう気持ちを育む。

【準備物】 人数分のやわらかいボール（フェルト製など）

活動の内容	指導者として気をつけたいこと
<p>【活動1】</p> <p>「ホグコール」</p> <p><b>合い言葉を決めた相手を見つける活動</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 2人組で合い言葉を決める。</li><li>② 部屋の前後に分かれ、目を閉じて向かい合う。</li><li>③ お互いが合い言葉を叫びながら近づき、出会う。</li></ol> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・危険回避のため、両手を前に出した「バンパー」をつくる。</li><li>・「目を閉じる」「声を出す」活動なので、事前にアイスブレイクなどを行い、活動しやすい雰囲気づくりが必要。</li></ul>	<p>【ふりかえりの例】</p> <p>「どんな合い言葉にした？何か意味があるの？」</p> <p>「出会えたときの気持ちはどうだった？」など</p> <p>※「待っているだけではチャンスは来ない。お互いに声を出し、求め合うことでわかることがある。」という学びにつなげることができる。</p>
<p>【活動2】</p> <p>「カウント・オフ」</p> <p><b>順番に数字を数える活動</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 全員で輪になり、人数を確認する。</li><li>② 誰からスタートしてもいいので、1から最後の番号（20人なら20）まで数える。</li><li>③ 声が重なったら、始めからやり直し。</li></ol> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・実施年齢によっては、一つのグループの人数を減らすことも可能。</li><li>・一人が一回しか数えられない。</li><li>・順番を相談したり、合図をしたりしてはいけない。</li><li>・発展として、アルファベットなどでも行うことができる。</li></ul>	<p>【ふりかえりの例】</p> <p>「どうやったらうまくいった？」</p> <p>「どうやってコミュニケーションをとった？」など</p> <p>※集中力を要するので、グループチャレンジの導入として使うことができる。</p> <p>※できるまで行う必要はないが、できなかったとき、指導者はどのような言葉を子どもたちに投げかけるか考えておく必要がある。</p>
<p>【活動3】</p> <p>「オールキャッチ」</p> <p><b>全員が投げたボールを目標数ほどキャッチする活動</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 全員が輪になり、1つずつボールを持つ。</li><li>② 1人が中央に立ち、一斉に投げ上げられたボールを目標の数だけキャッチする。</li></ol> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・中央の人数を増やし（3人程度）、最高何個キャッチできるかチャレンジすることもできる。</li><li>・全てのボールをキャッチできるまで、チャレンジすることもできる。</li></ul>	<p>【ふりかえりの例】</p> <p>「どうしてうまくキャッチできた？」</p> <p>「投げる人は、どんな気持ちで投げた？」など</p> <p>※投げる子ども、キャッチする子ども、それぞれの思いを引き出したい。</p> <p>※「自分だけでやろうとすると限界がある。仲間に頼る意識が変わったとき、可能性が広がる」という学びにつなげることができる。</p>